

T&M通信

～税務と経営～

2019年7月号

今月の経営チェックポイント✓

- 7月、8月決算法人の方は、賞与等決算の対策の準備をして下さい。
- 祇園祭 山鉾巡行は、前祭りが7月17日（水）、後祭りが7月24日（水）です。7月10日～28日まで中京区・下京区の四条通り周辺において交通規制がありますので、お気をつけ下さい。
- 今月の祝日は、15日（月）が海の日です。



納税期限スケジュール

- 源泉所得税（納期特例申請済の事業者の場合は1月～6月分）の納付は7月10日までです。
- 所得税予定納税の減額承認申請は7月16日までです。
- 所得税予定納税第1期分の納付は7月31日までです。
- 固定資産税及び都市計画税第2期分の納付は7月31日までです。
- 労働保険の年度更新（概算・確定）申告・納付は7月10日までです。
- 社会保険の報酬月額算定基礎届の提出は7月10日までです。

着眼点 「『魅力』とG20」

税理士 田中 彰

2019年も半分が過ぎ、後半戦のスタートです。

着眼点で今までも漢字に関することを書きましたが、久しぶりにそれに触れてみたいと思います。突然ですが、魅力の「魅」にはなぜ鬼が入っているかご存じですか。鬼という漢字は面をかぶって膝まづく人の象形文字で死者の霊魂から生まれた「もののけ」を意味する漢字だそうです（一説）。「魑魅魍魎」（ちみもうりょう）という四文字熟語がありますが、これは山や川の気から生じる化け物を意味する言葉で、ここにも魅が使われています。つまり魅力とは妖怪のように自分を無くす程の力を持ったものの事です。自分にとって魅力的な人や趣味には要注意ということでしょうか。

さて話題は変わりますが、先月の28日と29日に大阪でG20サミットが行われました。まず参加は、日・米・中・韓・露・英・仏・独・伊・アルゼンチン・ブラジル・オーストラリア・カナダ・インド・インドネシア・メキシコ・南アフリカ共和国・サウジアラビア・トルコ・EU（以上G20）にスペインやオランダ・シンガポールなどの招待国や国際機関等です。かつてのG7からここまで

増加すると如何なる基準で参加が選ばれているのか判りませんが、国際平和や国際経済に貢献する会議であるように期待します。

最近、ビジネスマンのスーツに17色のカラフルなドーナツ状のピンバッジが付いているのを目にされた方もおられると思います。これは国連が採択したSDGs (Sustainable Development Goals) つまり17の持続可能な開発目標を掲げた取り組みに賛同されることへの表明だそうです。ここでは17の課題について詳説しませんが、今回のサミットでも関連する取り組みは見られました。プラスチックの海洋汚染の防止に対するルール作りなど世界が協調して進めなければならない課題に一定の成果はあったようです。しかし世界の平和や幸福にとって最大の懸案である米中摩擦については成果が見られず残念でした。

●配偶者居住権について

2018年7月の民法の改正により、「配偶者居住権」という新たな権利が創設されました。

「配偶者居住権」とは、相続開始時に被相続人所有の建物に居住する配偶者が、相続開始後に終身又は一定期間、その使用又は収益を認めるという権利です。「配偶者居住権」には、「長期居住権」という被相続人の配偶者自身が亡くなるまで無償で被相続人の建物に住むことができるという権利と、「短期居住権」という相続開始後一定期間(遺産分割協議が整い実行されるまでの間等)、被相続人の所有する建物に居住する配偶者が使用できるという権利があります。いずれの権利も相続開始時に被相続人所有の建物に居住する配偶者でなければなりません。また、「配偶者居住権」は不動産登記をしなければなりません。この制度は2020年4月1日から適用されます。

(文責：田中 恵子)

●複式簿記の歴史 2 ～イタリア商人のマルコさん～

簿記の歴史を語る上で絶対に外せないのは、13世紀頃 イタリアでダチニ商会という会社を立ち上げ、【決算】という考え方を生み出したマルコ氏です。

ダチニ商会は超一流企業へ成長を遂げたとされていますが、それは決算により、キチンと経営状況を把握していたからだと考えられます。現代では年度末に決算を行うのは当たり前ですが、その頃 それを取り入れていたのはダチニ商会だけであったと言われています。財務諸表の体系が出来上がったのは19世紀頃とされているので、マルコ氏が採用していた決算は、とても単純なものであったと考えられますが、今も昔も、経営状況の把握が企業を成長させる鍵であるようです。

ちなみにですが、マルコ氏は幼い頃 家族を病気で失った、という記述があります。ここからは推測ですが、家族に向けられなかった愛情をダチニ商会に注ぎ、考えに考えて【決算】という考え方が生まれ、結果 会社は成長し、大成功を収めたのかなぁと思います。会社への愛情も企業の成長には欠かせないようです。

今回は、簿記がどのようにして日本に広まったのかをお伝えしたいと思います。

(文責：松原 礼)